

# 東京都江戸東京博物館 マイクロフィルム一覧

No.	マイクロフィルム名	概要	
江戸東京博物館所蔵文書			
江戸東京博物館所蔵文書	1	石井コレクション★ 類聚撰要★	日本法制史学の泰斗、石井良助氏が蒐集した資料群の内、古文書類をマイクロ化し、順次公開を進めている。資料の発生源は全国各地の地方・町方文書、幕府資料、行政資料など多岐にわたる。「類聚撰要」も含む。 「石井コレクション」の一部、雉子町（現・千代田区神田司町二丁目辺り）の名主齋藤月岑が編纂した町触集の写本。全51巻。弘化2年(1845)12月に名主木村定次郎、普勝伊兵衛が書き写したものの。第1巻には天保2年（1831）12月付けの凡例がある。
	2	四谷塩町一丁目文書★	石井コレクションの一部、四谷塩町一丁目（現・新宿区本塩町）において作成された文書群、計87点。幕末期を中心とする人別帳、町入用帳、御触留などがある。一つの町の資料群としては比較的良好なまとまったものといえる。
	3	勝海舟関係文書★	江戸東京博物館が所蔵する勝海舟関係資料のうち、文書・著作類53件124点をマイクロ化したもの。
	4	米屋田中家文書★	川瀬石町（現・中央区日本橋二丁目）の商人で六組飛脚問屋仲間と人宿を兼帯する米屋（こめや）田中家の文書、1073件、1646点。江戸～明治期の経営文書などがある。
	5	牧野家幕府役職詰席等関係資料★	丹後田辺藩主牧野家の古文書、全311点。田辺藩は幕府の奏者番、寺社奉行のほか大坂定番に任じられた藩主を輩出している。職務遂行のため前任者の記録を書写したもの、藩政に関わる史料が含まれる。
	6	井上貫流左衛門家文書★	近世後期の幕臣（御家人）井上貫流左衛門家の旧蔵文書。初代から四代にかけて約200年にわたる日記、蝦夷地関連文書、作事・普請に関わる資料などがある。
	7	新古改撰誌記★	中間頭の勤方に関する控書である「新古改撰誌記」全31冊（1～34巻のうち、12,23,26巻欠本）をマイクロ化。寛政年間から幕末までの諸触達、伺書、願書や一件書をまとめたもので、日光御参詣（天保14年）など江戸城外における勤方の記事も豊富である。
	8	江戸檜物町草分名主 星野家文書★	檜物町（現・中央区八重洲一丁目/日本橋三丁目）とその周辺を代々支配した星野家の文書全6点。星野又右衛門は家康の江戸入りに付き従って移住してきた草分名主のうちの一人。名主役を息子に引き継ぐ際の記録や、檜物町周辺の神田上水の絵図などがある。
	9	北品川稲荷門前文書★	街道沿いの品川地域の様子を知ることができる資料。北品川稲荷門前（現・品川区北品川二丁目）のほか、品川歩行新宿など周辺地域も登場する。稲荷は現在の品川神社。内容は出火始末、不正品の質入や売買、家督相続、湯屋の争論など多岐にわたる（主に状態）。
	10	旗本遠山氏領上総国山辺郡 清名幸谷村名主 飯高家文書★	旗本遠山氏領、上総国清名幸谷村（現・千葉県大網白里町）名主飯高家の文書群をマイクロ化したもの。村高帳や帳簿類、御触留、御用留などを含む。
	11	大伝馬町名主 馬込家文書★	大伝馬町（現：中央区日本橋大伝馬町）馬込家の文書類。江戸の草分名主であり、幕府の道中御伝馬役をつとめた馬込家の関係文書のほか陸奥国弘前藩関係文書など184点をマイクロ化。第2期として、新たに発見された馬込家関係資料のうち342点を追加した。
	12	江戸東京博物館所蔵資料 大福家文書・石井コレクション・ 内田家文書★	当館所蔵資料を用い、あきるの市五日市郷土館が作成したマイクロフィルム。おもに五日市村（現：東京都あきるの市）に関する江戸～明治期文書。「大福家文書」11点、「石井コレクション」41点、「内田家文書」49点。
	13	風船爆弾関係文書★	風船爆弾の気球部分製造に関連する文書87点。
	14	軍務官 猪山左内文書★	猪山左内茂之が軍務官として携わった「大坂兵庫出役」に関する文書を中心とした文書群、全18点。明治元年に軍防事務局から改訂され、兵部省に改編されるまでの1年2ヶ月ばかりの職であった軍務官の活動の一端を知ることができる。また、『武士の家計簿』で著名な猪山家の一面を窺うこともできる。
	15	町方与力 都筑家文書★	江戸町奉行所の与力をつとめた都筑家の資料群のうち、江戸～明治期の古文書17点をマイクロ化したもの。

No.	マイクロフィルム名	概要
16	幕臣 蜷川家文書 ★	旗本蜷川家に伝わった文書群の一部。蜷川親文の代である安永から明治期（一部に昭和前期含む）までの文書、計88点を収録。幕末から明治にかけての旗本家の歴史や暮らし向きを知ることができる。
17	武蔵国葛飾郡葛西領 船堀村東組文書 ★	現東京都江戸川区西部に位置する旧船堀村東組の古文書。寛政～天保期にかけての村人別帳を中心とした資料からなる。
18	田中久重関係資料★	江戸末期にからくり人形や無尽灯・万年時計などさまざまな機械を考案・販売し、“からくり儀右衛門”の通称で知られる田中久重の家に伝わる資料群。久重の墓碑銘や略伝の他、慶應2年に今井栄とともに上海へ密航した直前の長崎日記、明治6年に創業した“田中久重電機及諸機械製造所（後の芝浦製作所）”の設立規則草案、機械の図面類等がある。
19	御数寄屋坊主 益池了順関係資料 ★	江戸後期の数寄屋坊主の一人、益池了順の関係資料。坊主衆のひとつである数寄屋坊主は、茶室の管理を担う数寄屋頭のもとで茶器の管理や点茶を行った。本資料は幕末期のものであるが、江戸城御数寄屋に供えられた茶器の書上や日常行われる業務の具体像を知ることができる。
20	幕末風説書 ★	筆者不明。桜田門外の変や、文久2年の麻疹流行、下関砲撃事件等の文書や風説、瓦版などの情報を収載する。
21	雪曙弥生日記 ★	筆者不明。初篇の一から四までを題していることから、この後も続いていたものと思われる。アメリカ使節の登城から安政の大獄、桜田門外の変までの間で、主に水戸藩関係の見聞が記されている。
22	彦根藩士 西堀光徳幕末見聞録 ★	彦根藩士西堀光徳が記録した留帳及び日記、諸記録からなる。嘉永6年6月3日の黒船来航時に浦賀の警備にあっていた彦根藩の動きから始まり、文久3年の天誅組の乱の鎮圧、第二次長州戦争での在陣日記など、見るべきものが多い。
23	大和国郡山藩士 阿部家文書 ★	大和国郡山藩主柳沢氏の家臣・阿部家に伝わった「阿部氏文書」文書の一部と考えられる。江戸後期から末期にかけての、藩主の参勤交代や将軍への初御目見などの際の記録・覚書類が中心となっている。
24	江戸東京博物館所蔵典籍類 ★	江戸東京博物館で所蔵する典籍類を随時マイクロ化するもの。 *2019年現在公開：「いろは文庫」「教草女房形気」「三七全伝南柯夢」「夢想兵衛胡蝶物語」「立身大福帳」「童歌妙々車」「大晦日曙草紙」
25	御家人金田家文書 ★	江戸後期から先手組同心を務め、明治維新後は新政府に仕えた金田家に伝来した古文書類。田緒書・親類書の他、維新时期における旧幕臣の明細短冊、明治期の住居に関する資料が含まれる。
26	幕臣野口家文書 ★	幕府勘定方の下級官吏として活動した野口忠次郎（保穀）家に伝来した古文書類。維新後の忠次郎は一旦徳川家に随い静岡へ移住したが、後に明治政府の官吏となった。明治22年に退職し、内閣から恩給を支給された。野口の恩給受給に関する書類がまとまっている。
27	江戸東京博物館所蔵文書類 ★	江戸東京博物館で所蔵する文書類を随時マイクロ化するもの（現在公開分は下記）
	町方与力加藤家文書 先手組同心八代家文書	江戸中期から町方与力を務めた加藤家、および先手組同心の八代家に伝来した古文書類。加藤家は、国学者・歌人として著名な加藤枝直・加藤（橘）千蔭を輩出した。両家とも、由緒書や親類書を中心とする文書が中心で、他に加藤枝直の手蹟集がある。
	高橋是清関係資料 *平成28年度に追加公開あり	明治～昭和初期の官僚、銀行家・政治家として活躍し、2・26事件で暗殺された高橋是清の関係資料。是清死去後に、東京市が邸宅跡地を記念公園とし、「高橋是清翁記念館文庫」で保管展示した資料の一部。書簡類や『高橋是清自伝』の原稿が含まれる。
	京浜地方修学旅行日記	長野県上諏訪の中学生が大正4年（1915）に江ノ島・鎌倉・横浜・東京方面へ修学旅行をした記録。旅行の行程や感想などが詳細に書かれ、本人の描いた挿絵や現地で入手した絵葉書なども貼り込まれる。
28	幕臣土方家文書 ★	旗本土方家に伝わる、近世前期から明治初期にわたる文書群。系図や親類書・先祖書の他、明治維新前後における同家の動向を知ることができる書類が注目される。
29	府川家資料 ★	江戸末期から昭和前期まで三代にわたって続いた彫金師、府川一則家伝来の資料。府川家三代の「注文帳」と「書簡類」を収録。幕末から昭和に至る彫金師の活動と作品の変遷を通観できる。

No.	マイクロフィルム名	概要
30	山形藩主水野忠精母寿女関係資料 ★	出羽山形藩主(弘化2年に浜松藩から転封)で老中を勤めた水野忠精の生母寿(篠塚氏)とその周辺に関わる資料群。忠精の父忠邦と忠精二代にわたる水野家奥女中奉公の記録「水野家奥女中奉公細帳」や「山形藩水野家奥日記(山形藩奥女中日記)」などが注目される。
31	勤方諸心得控 ★	江戸城内で諸役に従事した五役のひとつ、黒鞆者(くろくわもの)を統括する黒鞆之者頭の勤方の手留(全一冊)。天保年間から幕末にかけて、黒鞆之者の業務に関する書類の雛形を多く収載する。巻末には「御頭替一件扣」と題する黒鞆之者頭の交替・引継ぎに関する書類がまとめられている。
32	文久三御用日記 上洛記 ★	文久3年(1863)の第十四代将軍徳川家茂上洛に随従した御中間頭・高橋平之丞による記録。御中間は、江戸城内で雑役に従事した五役のひとつで、城内警備や将軍の遠出に随行する役目を務めた。将軍上洛に係る担当業務に関する書類や随行した御中間の名簿、上洛から江戸帰着までの日記が詳細に書きとめられている。また、参考として天保14年の将軍の日光社参の記録も収められている。
33	大番頭大坂在番中月番日誌控 ★	大番頭で、元治元年(1864)中に大坂在番を勤めた、最上義連(出羽守)に属する組士による御用留とみられる。同年4月から5月にあたり、当時上洛中だった将軍徳川家茂の江戸帰府に関する事項や、組士の庶務事項にかかる文書等の写しが取められている。
34	片岡志道見聞録 ★	信州松代藩士とみられる片岡志道(可泉)が書写した幕末期の見聞集。安政4年(1857)から文久3年にかけて、江戸や京都から伝えられる出来事を記す。政治向きの事項にとどまらず、市井で起きた事件や流行、巷間で唄われた時勢を風刺する歌などを記す。他に先祖の日記の書抜も含む。
35	東京渡旧幕臣家禄証受取帳 ★	東京に寄留する静岡藩士に対する家禄の受け渡し帳簿。明治4年4月に制定された戸籍法に基づく第1大区から第7大区(第4・5大区欠)までの分が合本されている。藩士名の一筆ごとに、家禄の引渡しを確認する割印が捺される。帳簿の中には、西周・杉亨二・塚本明毅・田辺太一など、すでに明治新政府に出仕した藩士の名も見える。当時の旧幕臣の動向を知ることができる珍しい資料。
36	甲府勤番士別所家文書 ★	享保9年に甲府勤番となり播磨から甲府へ移住した別所家に伝来した古文書群。享保～安永の「甲府勤番日記」など、甲府勤番の実相を知ることができる。また、明治新政府によって組織された「護衛隊」に関する発給文書もまとまっており、維新时期史料としても注目される。
37	下総古河藩鷹見家関係史料 ★	下総古河藩士鷹見家旧蔵の古文書群。藩主家歴代の法号覚や学問にかかる写本があり、天明期頃と見られる江戸城での儀礼や勤方に関する類例集も多く含む。

旧大名家等で作成された江戸関係資料

旧大名家等で作成された江戸関係資料	1	榊原家文書 ★ (上越市立高田図書館蔵)	越後国高田榊原家文書1775点のうち、575点を国文学研究資料館でマイクロ化したもの。藩政日記や日記用留、明治維新期の史料が揃っている。
	2	高田藩記録 ★ (上越教育大学附属図書館蔵)	榊原氏が寛保元年に越後国高田15万石に移されて以後明治初めまでの藩庁記録、高田藩記録のうち幕末から明治初年のものを中心に104冊180点。
	3	間部家文書 ★ (鯖江市資料館蔵)	越前鯖江藩間部家に伝えられ、現在は鯖江市資料館に架蔵されている間部家文書のうち「鯖江藩日記」と「従江戸到来御用状」について、天保年間のものをマイクロ化。
	4	毛利家文庫 ★ (山口県文書館所蔵)	長州藩の公記録を明治以降の毛利家編纂所で整備した文書・記録類、毛利家文庫のうち、江戸藩邸関係資料を適宜選択の上マイクロ化したもの。
	5	徳山毛利家文庫 ★ (山口県文書館受託)	長州藩の支藩徳山藩、徳山毛利家の文書・記録類、徳山毛利家文庫のうち、『江府書簡録』をマイクロ化したもの。
	6	一橋徳川家文書 ★ (茨城県立歴史館所蔵)	一橋徳川家の文書のうち、享保6年～文久3年までの日記類をマイクロ化したもの。江戸中期から幕末までの江戸城における行事・儀礼などを研究するにも有用な史料。



No.	マイクロフィルム名	概要
旧大名家等で作成された江戸関係資料	7 津軽家文書 ★ (弘前市立図書館所蔵)	津軽家文書のうち、「御江戸日記」寛文8年～元禄16年をマイクロ化したもの。
	8 美濃高木家文書 ★ (名古屋市蓬左文庫所蔵)	美濃国石津郡の旗本(交代寄合)高木家に伝わる記録・文書類のうち、参勤のため江戸在住時の諸勤向日記類(享保17年～文化8年)16冊をマイクロ化。 ※複写不可
	9 大岡家文書 ★ (国文学研究資料館受託)	江戸町奉行・寺社奉行などを勤めた大岡忠相に関わる史料群。館蔵は忠相が寺社奉行在勤中の自筆日記(元文3年9月～寛延4年閏6月)59冊分。
	10 真田家文書 ★ (国文学研究資料館所蔵)	国文学研究資料館史料館が所蔵し、マイクロ化した信濃国松代真田家文書のうち、館蔵は「松代(国家老)日記」・「江戸日記」・「家老私用日記」(貞享3年～文政6年)。
	11 真田家文書 ★ (真田宝物館所蔵)	真田宝物館が所蔵する信濃国松代真田家文書のうち、留守居方の在府日記(文政12年～文久2年)17冊。
	12 宇和島藩主伊達家文庫文書 ★ (宇和島市立伊達博物館蔵)	宇和島藩主伊達家文庫のうち、江戸藩邸関係経費の書上や江戸御用場日記、御勤方日記、関東筋の堤川・樋橋の普請勘定帳簿など江戸関係資料をマイクロ化したもの。
	13 愛山文庫文書 ★ (津山郷土博物館所蔵)	愛山文庫「津山松平藩文書」のうち、「江戸日記」の一部(天保5年～明治元年)と、「江戸勘定奉行日記」(文政11年～明治元年)。
14 旧柳河藩主立花家文書 ★ (柳川古文書館保管)	旧柳河藩主立花家文書のうち、「江戸用心日記」、江戸留守居役の日記(「杉森日記」)、八代藩主鑑寿の日記、「江戸御納戸日記」他、江戸関係諸文書をマイクロ化。	
その他		
近世史料	1 旧幕府引継書 ★	江戸幕府から明治政府へ引き継がれた7,000点の資料。「市中取締類集」、「撰要類集」、「町方書上」など。原本は国立国会図書館で所蔵。
	2 江戸幕府刊行物集成 ★	福井保が調査した江戸幕府刊行物の内、マイクロ化が可能だった刊行物を収めている。
	3 柳営日記 ★	国立内閣文庫が所蔵する明暦2年～安政6年の江戸幕府日記。
	4 江戸文学総瞰 ★	近世文学資料が豊富な大東急記念文庫から厳選された版本878点、1530冊を収録。
	5 岡村金太郎蒐集 往来物分類集成 ★	東京大学総合図書館蔵の岡村金太郎が蒐集した往来物(寺子屋等で用いられていた教科書類)を中心に、東京大学所蔵の往来物を合わせてマイクロ化したもの。
近現代資料	6 三井家資料 ★	財閥三井11家が限定配付したもの。それぞれの始祖より年代順に家史を編纂。
	7 明治期刊行図書 歴史部門 ★	国会図書館所蔵図書の明治期刊行図書をマイクロ化したもの。館蔵は歴史部門のみ。
	8 徴発物件一覧表 ★	日本陸軍が編纂した明治期の徴発用軍事統計書。『共武政表』、『徴発物件一覧表』、『徴発物件表』ほかを収録。
	9 都道府県統計書集成 ★	『東京府統計表』(明治10-15)、『東京府統計書』(明治17年-昭和16)、『東京都統計書』(昭和24-47年)
新聞・雑誌		
新聞・雑誌	1 朝日新聞	創刊号(明治21年7月)～平成12年分までの新聞
	2 毎日新聞 ★	創刊号(明治5年2月)～平成12年分までの新聞 ※昭和17年以前の紙名は『東京日日新聞』
	3 読売新聞	創刊号(明治7年11月)～平成12年分までの新聞
	4 都新聞	明治45年5月～昭和17年6月 ※昭和17年10月に『国民新聞』と合併し『東京新聞』となる。 ※明治21年11月～大正元年までは復刻版あり。
	5 東京新聞	昭和17年7月～平成12年12月 ※昭和17年10月に『都新聞』、『国民新聞』が合併
	6 国華 ★	日本で最初の美術雑誌。館蔵は創刊号(明治22年10月)～第1149号(平成3年8月)と挿絵編(カラー)第1006号(昭和52年12月)～1125号(平成1年7月) ※第1134号(平成2年4月)以降は原資料あり